(17) 栃木県那須塩原市の那須蝋石鉱山跡ー追記

2008年までに数回現地を訪れて、結構なデュモルチ石を採集した場所であった。現地の現状確認と、ガーミンによるGPSログの獲得のために、岩友達と久しぶりに現地を再訪した。

肝心のデュモルチ石は全く薄くなっており、根気よく探さないとお目にかかれないようになっていた。良い標本が消えていくのは、捨てられた鉱山の運命である。が、根気を持てば大丈夫であろう。

2022年5月



図1 東北道の黒磯板室ICから現地までのルートを水色曲線で示している。赤輪が現地。右手に板室温泉がある。帰路に近場の温泉で一風呂を浴びるのも結構な趣味の一つとなろう。

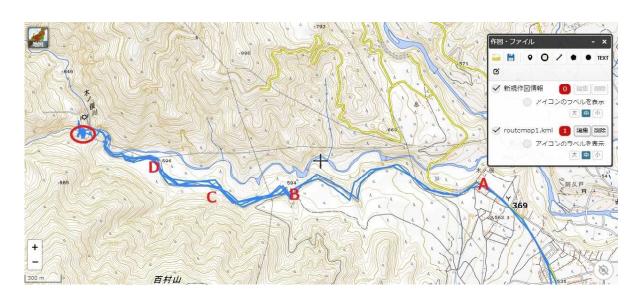


図2 図1の部分拡大図。369号線を板室温泉に向かって北西方向に進んできた。現地は木ノ俣川の上流にある。A点で369号から左折して、狭い村道に入ることになるが、入り口周りに多数の民家があり、かつ369号はこの当たりで左に急カーブともなっている。注意し、減速して左折する必要がある。もし、ここで左折できなければ、先に進んでいくとトンネルに入る。それで気がつこう。かっては、 $A \rightarrow D$ まで車で進んで行けたが、現在では所々にゲートが設置されている。ゲートが閉まっている所まで、車で進めば良いであろう。今回は、C点に駐車し、そこから歩いた。AからDの先まで道路は広く平坦である。

鉱山跡写真



写真1 木ノ俣川の本流は右に曲がっている。鉱山跡へは橋を渡らずに、前方に直進し、支流沢の右岸に入る。直ぐに、左手に蠟石を採掘した鉱山跡の断崖が目に飛び込んでくる。



写真2 赤輪が発電所施設。図2中に発電所の地図記号で記されているものである。



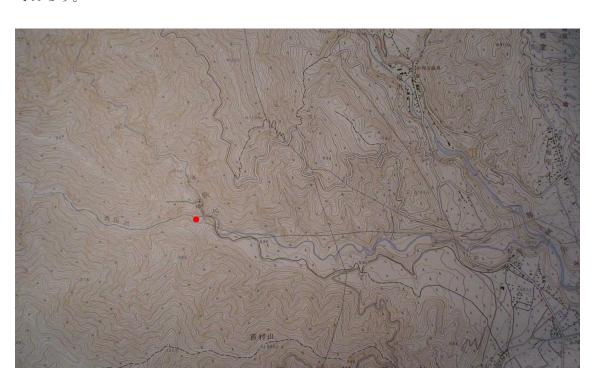
写真3 支流沢を遡ってきた。下流を見ている。赤輪は写真1に写っている橋。2重赤輪当たりが結構なズリがある箇所。デュモルチ石の取れた狸堀もある。



写真4 写真3を撮った当たりで、右岸を見ている。赤輪の所の直立木の後ろに、 鉄扉のついた坑口跡のようなものが見え ている。火薬庫跡のような気がするが。

(17) 那須(なす) 蝋石鉱山跡 手引き書は参考文献(1)である。国道369号を黒磯から板室温泉に向かって北西方向に行く。 那珂川の支流である木ノ俣川に架かっている橋「木ノ俣橋」の手前の木ノ俣地区に、木ノ俣川の右岸 に沿って延びている木ノ俣林道入り口がある。が、分かりにくい。車で付近に到達したら、徐行するか、停車して、入り口を確かめた方がよい。林道に入れば、道に沿って川を上っていく。3kmほどで、広い駐車場がある。ここに車をおく。道路を10分ほど先に進んでいくと、橋があり、川は2つに分れている。橋を渡っての先には発電所がある。橋の辺りから左手を見れば、広い崖が見える(写真)これがか、不発無していた桜石笠山野である。橋の辺りから左手を見れば、広い崖が見える(写真)これがか、不発無していた桜石笠山野である。橋の辺りから左手を見れば、広い崖が見える(写真)これがか、石笠魚 真)。これがかって稼働していた蝋石鉱山跡である。橋を渡らず、崖を目指して左手に進んでいく。 直ぐ崖の麓となる。足元に気をつけ、ガレ場を登りながら、転石やズリの探査が行える。 デュモルチ石を採取できる確実な場所はこの崖の近くにある。崖下まで戻り、沢(西俣沢)に降り、

少し上流に進む。数十m位である。進行方向の左手の沢岸小さいズリと共に、その上に小さい穴が見える。ここで、デュモルチ石を採集できる。参考文献(1)が詳しい。が多くの採集者がとり続けているので、肝心の石は大分奥にある。掘り採れる道具がなければ、ズリに落ちている鉱石を採集すれ ば良いであろう。



地図 国土地理院2万5千分の1地形図「板室」 2008年9月、その他の日 探査日 参考文献

(1)「世界の鉱物コレクション」発行所デアゴスティーニ

鉱山跡写真



橋の当りより撮影

採集鉱物写真

デュモルチ石 (DUMORTIERITE デュモルチエライト) 品名

採取日 2008年10月~11月

栃木県木ノ俣川蝋石鉱山跡(参考文献(1)の案内による) 場所

化学組成 Al₇ (BO₃) SiO₄) 3O₃ 色 青色、その他

解説

- (1) ロウ石の鉱床では良く取れる。アルミが多く含まれるとロウ石のその部分が青色となる。 (2) 外見は、参考文献(1) のミネラルファイルで解説されているデュモルチ石とは似てもにつかない。他の鉱物辞典なども参考すると、本品の方がよろしい。



水に濡らすと発色が良い。